

仙台市学校給食の歩み



昭和 21 年 山菜給食



昭和 40 年ごろの給食



平成 8 年ランチルームでの
バイキング給食



配膳のようす

仙台市教育委員会健康教育課

仙台市学校給食のあゆみ 1

(昭和七年〜昭和三七年)

- 昭和 七年 欠食児童を対象に栄養弁当を給した（日本栄養協会扱い）
- 昭和 八年 木町通小学校で栄養供給開始
- 昭和十三年 木町通小学校で味噌汁を県内で初めて給した
- 昭和十五年 栄養不良児、身体虚弱児を対象にみそ汁を給した
- 昭和十九年 決戦非常時措置として一人一週一合の米を三回に分けて雑炊として給食空襲のため、中止
- 昭和二十年 終戦直後、児童の栄養失調、欠食打開のため一部校で塩汁給食を開始
- 昭和二十一年 軍用缶詰の放出により、市内全校で缶詰給食を実施
- 昭和二十二年 輸入缶詰放出（パン、トマトジュース、肉類、乾燥脱脂ミルク）
- アメリカ力より、乾燥脱脂ミルクの配給があり、ミルク給食を開始
- 昭和二十三年 ララ委員会の援助物資により、副食の内容が充実された
- 昭和二十四年 ユニセフ寄贈のミルク給食開始。
- モデル校として立町小学校が文部省指定校となり栄養士の有資格者を採用
- 昭和二十五年 国庫補助を受けて学校モデル調理室建築（木町通小、生出小）
- 仙台市教育委員会発足**
- 昭和二十六年 市内小学校において**完全給食開始**（二八校中二五校）
- 昭和二十七年 市教委事務局に栄養技術職員を配置する
- ミルク調理用木製かくはん機**を、立町小学校考案し、特許取得
- 全国学校保健大会が開催され、学校給食の公開授業を行う（立町小）
- 絵どきによる「学校給食のしおり」を編集し、全市児童の指導にあたる
- 昭和二十八年 **薬液湿布による手指消毒**を考案し、各校で実施
- 昭和二十九年 夜間定時制高等学校にミルク給食開始
- 昭和三六年 夜間定時制高等学校にミルク給食開始
- 昭和三七年 夜間定時制高等学校に夜間給食開始



立町式ミキサー（昭和27年）



山菜料理給食（昭和21年）



初期の給食の様子（昭和18年）

仙台市学校給食のあゆみ2

(昭和三八年〜平成二年)

- 昭和三八年 中学校全校に委託混合乳の給食(ミルク給食)開始
- 昭和四二年 高砂学校給食センター完成し、センター給食開始
中学校(一部)完全給食開始
- 昭和四三年 野村第一学校給食センター給食開始
- 昭和四五年 中田学校給食センター完成
大型先割れスプーン、ランチプレート導入
委託混合乳から牛乳給食開始
中学校全校に完全給食開始(二三校)
- 昭和四七年 野村第二学校給食センター給食開始
- 荒巻学校給食センター給食開始
- 昭和五十年 若林学校給食センター給食開始
学校給食運営審議会設置
- 昭和五一年 夜間定時制高等学校で自校炊飯による米飯給食開始
- 昭和五二年 野村第三学校給食センター給食開始
- 昭和五三年 幸町学校給食センター給食開始、高砂学校給食センター廃止
市内全小・中学校に委託炊飯による米飯給食開始
- 昭和五六年 仙台地区は先割れスプーンを廃止し、箸とスプーン持参
- 昭和五七年 加茂学校給食センター給食開始
- 昭和五八年 宮城学校給食センター給食開始
宮城地区、秋保地区に米飯導入
- 昭和六一年 仙台市小・中学校「学校給食指導の手引き」発行
- 平成元年 米飯給食を週当たり二・五回とする
- 平成二年 「仙台市食品規格書」を作成
米飯給食にササニシキ百%導入(平成十一年ひとめぼれへ変更)



幸町学校給食センター(昭和53年)



40年代給食の様子



高砂学校給食センター(昭和42年)

仙台市学校給食のあゆみ3

(平成三年〜平成十七年)

平成三年 余裕教室の有効活用の一環として、**ランチルーム整備開始**(鶴谷小、旭丘小)

平成八年 「学校給食における**病原菌大腸菌O157**による食中毒防止のための

単独調理校及び学校給食センターに係る献立及び食材に対する基本方針」を策定

平成九年 「仙台市食品規格書」を改訂

平成十年 太白学校給食センター給食開始、中田・若林学校給食センター廃止

環境ホルモンへの懸念から、給食用食器を**ポリカーボネート製からステンレス製へ切り替え**

「仙台市の児童生徒の一人一回当りの平均所要栄養量の基準」の一部を改定

平成十一年 学校運営審議会の答申に基づき給食費を七年ぶりに改定

白衣、手指消毒用ペーパーを公費負担とする

平成十二年 「**学校給食作業の手びき**」を改訂

保健給食課から健康教育課に改組

柳生小、坪沼小で**強化磁器食器**使用を試行開始

生ゴミ処理機を小中学校単独調理校に設置、堆肥化に取り組む(小学校十七校、中学校三校)

学校栄養職員特別非常勤講師制度が始まる

仙台市教育委員会発足五十周年記念式典 「学校給食と教科書展」開催

平成十三年 遺伝子組換え食品の表示義務化に伴い、非遺伝子組換え食品を使用するよう通知

狂牛病(牛海綿状脳症)対策として一時的に牛肉の使用を自粛

平成十四年 給食回数数を固定制から選択制とする

学校給食から出される生ゴミを**堆肥化センター**に運びリサイクルを始める(野村、加茂センター)

平成十五年 「**食に関する指導の手引**」を作成

新荒巻学校給食センター給食開始

単独調理校及び荒巻学校給食センター対象校でABS製食器を使用開始

平成十六年 「仙台市学校給食 食物アレルギー対応検討委員会」が提言を提出

平成十七年 仙台・泉地区の米飯回数が二・五回から三回となる。麦ご飯、まぜご飯を導入

「**食物アレルギー対応の手引**」を作成



荒巻学校給食センター(平成15年)



楽しいバイキング給食(平成8年)



明るいランチルーム(平成6年)

仙台市学校給食のあゆみ 4

(平成十八年～平成二六年)

平成十八年 (仮称) 新野村学校給食センター整備事業 PFI 事業契約 (二十年度稼働)

仙台市で初めて**栄養教諭**が採用される。(高砂小)

平成十九年 実践事例「食物アレルギー対応実践事例集」発行

平成二十年 新野村学校給食センター稼働、アレルギー対応食専用調理室設置

「食物アレルギー対応の手引」改訂版を関係機関に配布

平成二十一年 (仮称) 新高砂学校給食センター整備事業 PFI 事業契約 (二十二年度稼働)

幸町学校給食センター廃止

平成二十二年 新高砂学校給食センター稼働、アレルギー対応食専用調理室設置

平成二十三年 **東日本大震災発生**

簡易給食提供 (四月十八日～四月二十八日)

完全給食再開 (五月二日以降)

平成二十四年 各給食センターに放射性物質検査器具を配備、食材に対する検査を開始

平成二十五年 学校運営審議会の答申に基づき給食費を十四年ぶりに改定

平成二十六年 「食に関する指導の手引」改訂版を配布

「食物アレルギー対応の手引2014」「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を配布



震災当時の簡易給食(平成 23 年)



アレルギー調理室(平成 20 年)